

赤十字活動資金へのご協力ありがとうございました。

いのちを守る赤十字



広島県内の救助現場での医療活動

平成30年7月豪雨災害での日本赤十字社の活動

西日本を中心に甚大な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」。

日本赤十字社は発災直後から被害が大きい岡山県、広島県を中心に医療救護班やDMAT(災害派遣医療チーム)、医療コーディネートチーム(被災地の医療ニーズを把握し、医療活動の専門的助言を行う)を派遣しました。各地の避難所では、毛布や緊急セット(歯ブラシ、携帯ラジオ、タオル、懐中電灯など)などの救援物資を配布しました。

今後も、被災された方々に寄り添った支援活動を続けていきます。

日赤の活動状況 (※平成30年8月1日時点)

救護班等の活動状況

- 医療救護班 合計 64 班
- 日赤DMAT 合計 23 班
- こころのケア班 合計 20 班
- 日赤医療コーディネートチーム 合計 19 班

※活動を終了した班を含む

救援物資の配布状況

- 毛布 10,000 枚
- 緊急セット 2,528 セット
- 安眠セット 1,397 セット
- タオルケット 275 枚

そのほか支援企業から提供された簡易トイレや経口補水液、弾性ストッキング等を配布しています。

回覧メモ

平成30年7月豪雨災害 被災地からの声

私たちが被災地でいただく「ありがとう」の言葉は、日赤の活動をご支援くださる皆さまへの言葉です。今後も活動を通じて、皆さまの思いを届けてまいります。



自宅1階が浸水し、2階に避難し、数日間過ごされた54歳の男性

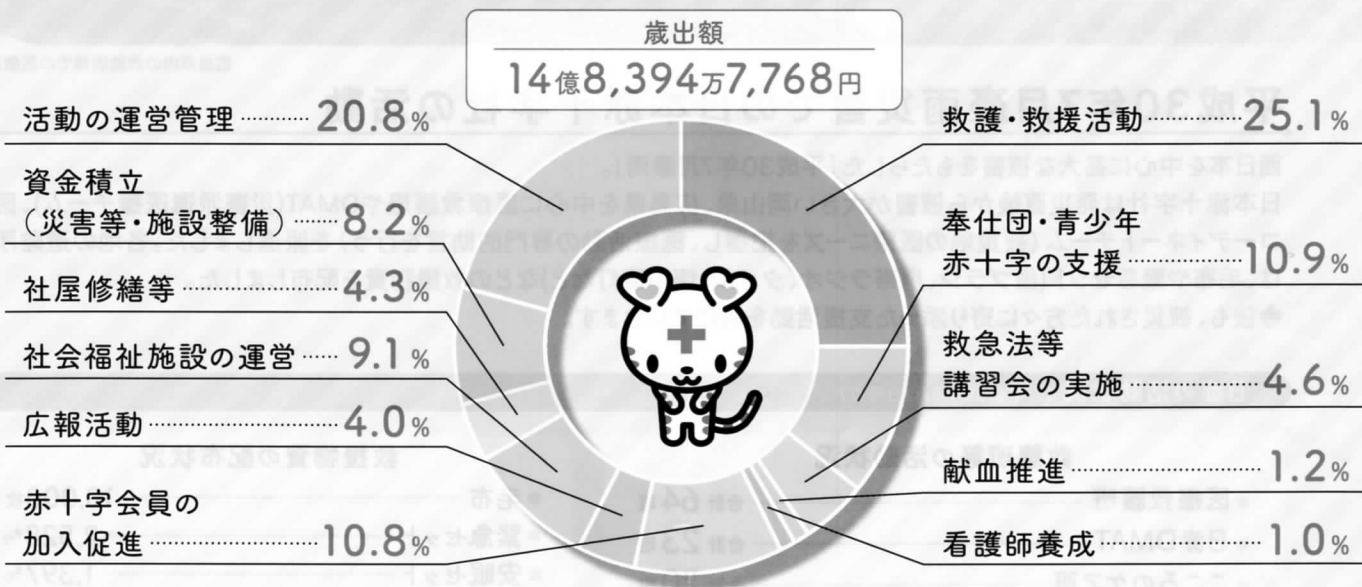
避難所に来て、医療救護班に足のけがを看てもらいました。対応が早くて、親切にしてもらいました。これからも社会に貢献する日赤であって欲しいです。

小学校に避難された81歳の男性

普段行っているリハビリに行けず、足が腫れてしまいました。避難所に来てからもどうしようと思っていましたが、看護師の方にいつもと同じ塗り薬やシップを貼ってもらい、安心しました。



平成29年度 活動資金の使い道



あたたかいご支援ありがとうございました。

発生が危惧される大規模災害に備え、継続的な支援が必要です。

日本赤十字社へ活動資金のご協力をいただいた方に、税制上の優遇措置と表彰制度がございます。詳しくは当支部ホームページをご覧ください。振興部地域推進課までお問い合わせください。